

歯周病と関連する全身の病気

歯周病と胎児の低体重・早産の関係

妊娠期・乳幼児期・学齢期シリーズ vol. 4



「早産」は妊娠 24 週目以降、37 週未満の出産のことであり、「低体重児出産」は体重 2 5 0 0 g 未満の出生児のことです。

1996 年、アメリカの研究報告で「歯周病は早産の危険因子の 1 つ」という発表がありました。

ある基準以上の歯周病がみられた妊婦は、早産あるいは低体重児出産に対する危険率が 7.5 倍高かったことが報告されています。

なぜ歯周病とお腹の赤ちゃんが関係するのか？

それは歯周病菌によって陣痛、出産と同じメカニズムが発生するから！

陣痛は子宮収縮作用のある「プロスタグランジン」という物質の分泌が高まって起きます。この「プロスタグランジン」の分泌を促すのが炎症により増える生理活性物質の「サイトカイン」です。



重度の歯周病があると同じメカニズムが起こります！

歯周病により炎症が広がると、それを抑えようとしてプロスタグランジンが作られてしまうため、分娩時と同じように子宮の収縮が促されて、早産が引き起こされてしまうのです。

- ♥ 妊娠中は特に歯周病が重症化しないように毎日の口腔ケアを心がけましょう。
- ♥ つわりや体調が悪くて歯ブラシをお口に入れられないようなときは、洗口剤などでよくうがいをしましょう。
- ♥ 安定期になったら、歯科医院で「妊婦歯科健診」を受けましょう。



山形県口腔保健支援センター
(山形県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課内)
☎ 023-630-2337